

2

016年は参議院選挙の年だが、財政再建に向けて、17年4月に消費税率の引き上げが予定されている。

だが、財政再建には増税だけでなく、急増する社会保障費の抑制も重要な課題となってくる。周知の通り、社会保障費が急増する背景には、長寿化や高齢化がある。

この長寿化や高齢化を象徴するのが「61568」という数字だ。これは、厚生労働省の「百歳以上高齢者等について」という調査に基づくもので、15年における百寿者（100歳以上の高齢者）の人数を表す。前年から2748人増加し、百寿者数は初めて6万人を突破した。

15年における百寿者の男女の内訳は男性7840人、女性5万3728人であり、百寿者が8人いると、男性は1人で残りの7人は女性であるという事実や認識も重要である。つまり、百寿者の多くは女性なのである。

なお、人口10万人当たりの百寿者は全国平均で48・45人だが、都道府県別で見ると、1位の島根県は90・67人、最下位の埼玉県は28

百寿者数の急増から分かる 長寿化・高齢化のスピード 社会保障の抜本改革が急務

数字は語る

法政大学教授
小黒一正

6万1568人

2015年の百寿者数(年齢は9月15日現在)

厚生労働省調査「平成27年 百歳以上高齢者等について」

・68人という具合に「ばらつき」がある。また、都道府県別で百寿者の人口が最も多いのは東京都の5356人であり、2位の神奈川県は3315人、3位の大阪府は3304人と続く。

ところで、厚生省の資料によると、百寿者数が1万人を超えたのは1998年。それから17年、平均で毎年約3000人もの百寿者が増えてきたことになる。ちなみに、前回の東京オリンピックが開催された64年の百寿者数は191人。長寿化や高齢化の進展がいかに著しいか分かるだろう。

この傾向は今後も続く。国立社会保障・人口問題研究所の「将来推計人口」(平成24年1月推計)によると、団塊の世代が全て75歳以上になる25年の百寿者は約17万人、50年には約70万人に到達することが予測されている。

長寿化や高齢化は、医療技術の進歩や生活水準の向上等がもたらした日本が誇るべき功績といえるが、この功績を生かすためにも、今後の超高齢化に備え、持続可能な社会保障制度の構築に向けた抜本改革が急務だ。